

令和3年度 第1回多賀城市総合教育会議 会議録

1 日時 令和4年1月31日(月) 13:15~15:25 (休憩14:25~14:30)

2 場所 多賀城市役所3階 第一委員会室

3 出席した構成員

市長 深谷 晃祐

教育長 麻生川 敦

委員 菊池 すみ子

委員 樋渡 奈奈子

委員 林 幹字

委員 小野 聡子

4 欠席した構成員 なし

5 事務局職員

市長公室長 小野 史典

市長公室長補佐(行政経営担当) 佐藤 昌史

市長公室長補佐(市民文化創造担当) 鈴木 孝行

市長公室副主幹 佐藤 紘一

市長公室主事 佐々木 理恵

6 その他出席した職員

教育部長 阿部 英明

学校教育監 伊藤 克宏

教育総務課長 佐藤 良彦

生涯学習課長 水越 森蔵

文化財課長 内海 年一

教育総務課課長補佐 今野 一博

教育総務課副主幹 佐々木 多恵子

7 協議・調整事項

(1) 令和4年度組織改編について

(2) 令和4年度に取り組む教育分野の主な予定事業について

(3) 多賀城創建1300年記念事業について

8 市長開催挨拶

○議題の一つ目「令和4年度組織改編について」では、第六次多賀城市総合計画に掲げる将来都市像「日々のよろこびふくらむまち 史都 多賀城」の実現に向けて、現下の課題に迅速に対応するため、令和4年4月に組織改編を行うことについて説明をするもの

○議題の二つ目「令和4年度に取り組む教育分野の主な予定事業」は、令和4年度における市政の方向性と教育分野の主な事業について説明するもの

○議題の三つ目「多賀城創建1300年記念事業について」では、令和6年に多賀城創建1300

年を迎えるにあたり、本市の魅力を外に発信するために様々な取組を実施することについて説明するもの

○令和4年度では、小中学校施設の改善が必要となっている箇所に対し、予算を重点的に充てて修繕等を進め、小中学校における子どもたちの学びの環境を改善していく。

○市長に就任して1年が経過したが、様々な場面で、現場の声を直接いただくことがあった。今回も議事内容に関わらず活発な議論や情報共有ができればと思う。実り多き会議にするため、よろしく願いたい。

9 議事に係る主な発言内容

(1) 議事 令和4年度組織改編について（資料1）

樋渡委員：保健福祉部の子ども政策課と子ども家庭課について、厚生労働省からシームレスな支援が提唱されている。業務分担を越えた情報共有や取組が図れるとよいと思う。支援を受ける側にとって、ストレスのないようにして欲しい。

事務局：おっしゃるとおりであり、同じ認識を持っている。効率的に業務ができるようにという部分での今回の組織改編である。子育て支援に関わらず、連携がきちんととれるように、現在調整している。

小野委員：支援学校で教えているが、幼少期に発達障害だと分かれば早いうちに対応や支援ができるが、なかなか難しい状況もある。児童発達支援センターの管理運営については、障害福祉のセクションとなっているが、子どもたちを切れ目なく支援していくシステムとしてはどのようになっているのか。

事務局：教育委員会事務局を含め、保健福祉部の各部門など関連部署で連絡会議を行い、情報を共有し対応している。例えば、子どもの検診の際に気になる子やその家族がいた場合は、関連セクションと情報を共有する場を設け、シームレスな支援となるように、そのような視点で支援をしており、組織改編後も引き続き取り組んでいく。

小野委員：組織改編後もこれまでの取組の良さが残ることと理解した。

小野委員：市民文化創造課の担当で、交流人口の拡大とあるが、具体的にどのようなことをしていて、今後どのような取組を予定しているのか。個人的に他自治体の広報誌を取り寄せていて、それを見ると過疎地域などは結構面白い取組をしており、自らも関係人口として貢献している。今後のためにも多賀城市での取組を知りたい。

事務局：市民文化創造というのは、歴史や文化、芸術を活用してのまちづくりということである。特に本市では、アートという視点をもって、多様性や寛容さを認め合う市民文化を創っていきたいと思っている。また、市役所だけでなく市民も一緒になって、本市のために何かをするきっかけ作りになる事業を企画している。多賀城創建1300年記念事業もその一つである。創建1300年をゴールとせずに、それをきっかけとして多賀城に来てもらい、多賀城で暮らしていく中で何かをはじめられそうだと、市民が一步踏み出すことを目標としている。そのようにしていると自ずと、人が集まり多くの人との交流が生まれ、関係人口や交流人口の拡大に繋がると考え、そのような事業展開を予定している。

(2) 議事 令和4年度に取り組む教育分野の主な予定事業について（資料2）

小野委員：チルドレンファーストという言葉はすごく嬉しく思う。多賀城市に住んでいると、子育てがしやすい、子どもたちに優しいということが、何年後かに成果として見えてくるといいと思う。

小野委員：デジタルデバイスが高齢者においては大きいと思う。例えばワクチン接種の予約を一つとってみても難しくできない方が多いと思う。恐らく今の子どもたちは、小さい頃からデジタル機器に慣れ親しんでいるため心配はないと思うが、学校を利用して何かデジタルデバイドを解消するための取組はできないか。例えば、父母を対象としたお子さんがいる家庭向けの教室といったものである。

市長：町内会単位でデジタルデバイス解消のための取組としてスマホ教室を行う予定である。民間事業者と協力の上実施する予定である。各種申請などがデジタルだけになるのは、まだ先の話であり、アナログの方法も残しつつしばらくは併用を考えている。

小野委員：多賀城市では校務支援システムを導入していると聞いている。私立学校では、リモートワークを可能としており、セキュリティ等の課題はあると思うが現状はいかがか。

学校教育監：校務支援システムの運用は、限られたネットワークの中で実施している。情報漏洩を防ぐため、学校内のみの利用としている。クラウド化については、このような課題があり現在研究中である。

市長：校務支援システムは共通のものが良い。そういった部分は県と連携しながら進めていく必要がある。

教育長：Google のアカウントは全県標準である。教材の作成や研究をしたものについては、Google のクラウド上での共有は可能な状態である。生徒の成績については、セキュリティの考え方の整理が必要となる。

樋渡委員：公的機関であるため、データ流出に対する考えはしっかりしていただきたい。ネットワーク利用の際の利便性と同時に、セキュリティの守り方や情報を調べる能力を、教員にも子どもたちにも、教育していくことが重要だと思っている。情報を調べられる能力をつける指導や教育が学校に望まれている。導入時における教育の重要性を考えて欲しい。

樋渡委員：ブックスタートはとてもいい事業だと思う。本好きな子が増えると良い。全体的にこれまで市長公室で担当していたことが、組織改編によって分担されたように思うが、良いところもあれば、同時に責任の重さなど大変だとも思う。

樋渡委員：子ども医療費助成について、自己負担無しという部分について大変素晴らしいと思う。ただ、無料より高いものはないという考えも持っているため、無料であるがため、なし崩しの受診に繋がるのではないかと。無制限に資源があるわけではないため、受診する方のモチベーションを大事にする環境づくりが大切ではないか。

市長：仙台市などで実施しているような自己負担についても、議論をしているところである。口腔ケアなどの予防医療も併せて実施し、市民の皆様の御理解を得ながら進めていく必要がある。どこかで一定の線引きはしたいと思っている。

菊池委員：子どもたちへの厚い支援に感謝したい。心のケアハウスについてだが、令和4年度から民間へ委託をすることによって、一人でも多くの方を救っていただきたいと思って

いる。県補助が無くなるとのことだが、事業は続けていただけるということに安堵している。総合計画には、住み続けたいと思えるようなまちづくりの思いが基本方針に反映されていると思うが、皆が輝いて、元気に育っていく、そんなまちになっていければいいと思う。

樋渡委員：子育てや母子保健の観点から、新型コロナウイルス感染症の影響で里帰り出産が難しい状況がある。里帰り先の病院で受診や出産ができず、断られるケースがある。妊婦にとって安心して産める環境が望ましいと思うが、市の保健師が医療機関と妊婦との橋渡しのような役割は担えないだろうか。今ある業務の延長で、そのような相談を受けたり、アドバイスができたりするシステムがあればと思う。医療機関も大変な状況なため、全て解決できる問題だとは思わないが、少しでも妊婦が安心できるような取組ができればと思うので、よろしく願いたい。

市長：保健福祉部の担当課へ上記の内容を伝える。

教育長：子どもたちの学ぶ環境の整備について、令和4年度は大きく予算を充てていただいたことに感謝したい。

(3) 議事 多賀城創建1300年記念事業について（資料3）

樋渡委員：レゴブロックで作った南門が展示されているのは、知っていたが「東大レゴ部」が作製したという部分をもっと強調すれば、良いアピールになるのではないかと。

事務局：展示している台の説明書きの部分には記載があるが、もう少し強調させたいと思う。

樋渡委員：甘葛煎スイーツのワークショップは大変興味深い。今までにないスイーツができれば素晴らしいと思う。

樋渡委員：東京オリンピックの聖火リレーの際に、俳優の千葉雄大さんが走者として出ていて、反響がとても大きかった。多賀城創建1300年の事業でも、何かのイベントの際に来ていただければ良いと思う。多賀城にゆかりがある方の活用についてはいかがか。

市長：千葉雄大さんには本市の「悠久浪漫大使」を任命している。千葉雄大さん以外にも、本市にゆかりがある方は多くいらっしゃるため、是非そういった部分でのお願いはしていきたい。

菊池委員：天平衣装の再現は、他の地域で行っているところは少ないと思う。県内だけでなく、全国的にも世界にもアピールできるものだと考える。

事務局：天平衣装の再現は、奈良市で既に取り組んでいるが、本事業は、衣装を染めるところから行い、参加者には古代の色を体感してもらう予定である。

菊池委員：陸奥国の刻印の復刻については、完成後どこかで実際に印を押せるような仕組みがあると、観光まちづくりにも繋がるのではないかと。

菊池委員：多賀城を知り多賀城を語れる児童生徒の育成が教育委員会の基本方針となっているため、そういった学べる機会があると良い、中でも大伴家持の終焉の地であることを取り上げていただきたい。市内には歌枕の名所が多くあり全国でも4番目くらいの多さだったと記憶している。そのような点もPRの題材にしていきたい。

樋渡委員：市民との万葉の花いっぱいプロジェクトについて、万葉集にちなんだお花や植物が好きな方や、興味がある女性は多いと思う。大伴家持や万葉集との関わりを伝えつつアピー

ルすると、多くの方がいらっしゃるのではないかと。広報多賀城を拝見していると、多賀城の歴史などを深く掘り下げた記事があり、素晴らしい内容となっている。

樋渡委員：学校でタブレット端末が配られているので、市長自らが出演した多賀城の歴史やスポットを紹介したショートムービーのようなもので、お父さんから子どもたちにお話を聞かせているようなイメージの動画を配信すると、子どもたちも自然に多賀城を学べるのではないかと。

市長：市内の小中学校で講演するのもいいと思う。

菊池委員：多賀城南門の見学会についてだが、是非多くの子どもたちにも見ていただきたい。復元過程を見ることによって、完成後の感動が違うと思う。特に、移動が大変な東部地区の子どもたちに見ていただきたい。市内でも南門近隣の西部と東部では、温度差があるように感じる。工事スケジュールの邪魔にならないことを前提に、子どもたちにそのような機会を与えていただきたい。

教育部長：菊池委員がおっしゃっていることはごもっともである。来年、再来年は復元工事をスピードアップさせる必要があるが、土日など工事が休みの期間を使って調整していきたい。

樋渡委員：以前、政庁跡で薪能をしたことがあると記憶しているが、南門が出来たあとも様々なイベントと組み合わせて行くと、興味を持って訪れる人は多いのではないかと。

市長：約30年前に10回ほど薪能は実施した。薪能は金銭的負担が大きかった。

林委員：多賀城市にお願いしたいことは、市内でイベントを実施したい時に、場所等を借りる手続きがスムーズにできるようにしていただきたい。市民の中でそのような企画が持ち上がっても、借りる手続きのハードルが高いと諦めてしまうことになるため、誰もが利用しやすい場所になるように求める。

樋渡委員：金銭的な部分の解決方法として、クラウドファンディングを活用するといった方法もある。

菊池委員：以前来ていただいていた、能楽師の中で人間国宝になった方もおり、その娘が塩竈市に教えに来ている。もし何かあれば、お手伝いできるかもしれない。

10 その他の発言内容

林委員：学校のプールの外部委託の件について伺いたい。

市長：維持管理コストの問題などもあり、民間で実施ということを検討したい。太宰府市では2019年に実証実験をしているため、事例を参考にしつつ、そういった運営のコスト面や先生方の指導の負担感を減らし、その分先生が子どもたちに向き合う時間や授業の構築に費やす力や時間が増やせるのであれば、今後検討を進めていただく方向で教育長と話をしている。具体的な時期や対象となる場所については、まだ決まっていない。公共施設等総合管理計画との関係もあり、市民プールの使い方などを含めて、様々な方法の中で今後検討できればと考えている。

樋渡委員：学校のプールを集約した場合、使用する時間の調整や学年単位の実施など、運用面での心配があるが。

市長：プールの授業時間は年間で決められている。

教育長：現状、学校のプールは温水ではないため夏しか入ることができない。室内のプールは温

水のため1年を通して入ることができ、夏に集中しているプールの授業を分担して実施できる。

樋渡委員：いくつものプールの維持管理は大変だと思うが、子どもたちが夏休みにプールに入る楽しみがなくなってしまうのではと心配している。

小野委員：ここ2年くらいは、熱中症の危険性が高く学校のプールの開放ができないところが多かった。今後もそのような状況が続くのであれば、屋内の民間のプールを活用できればと思う。

樋渡委員：学校プールを集約した場合考えられるハードルは、移動の交通手段であり、事故があった際の補償などの問題である。

市長：確かにそのような問題も考えられるが、市内の事業者にはバスを所有している事業者もあるため、バスの活用はできなくもない。また、市民プールがあるため、市内の民間のプール事業者では利用料を安易に上げられない状況があり、その相談を受けることもある。学校のプールのランニングコストと授業のカリキュラムの組み方を総合的に勘案すると、今、決定に係る議論はできないが、様々なやり方の中で検討できるのではと考えている。

樋渡委員：市民プールが休業していて、残念だという高齢者の声も多い。

市長：学校のプールだけでなく、公共施設全体で縮充という考え方で、箱の維持ではなく、機能の維持をしつつ利用価値を高めていく検討をしていきたい。シルバーヘルスプラザのお風呂もその一つで、市内に民間の入浴施設が多くある中で本当に必要なのか、議論を重ねていく必要がある。

樋渡委員：費用対効果の考えだけでなく、公的なサービスとして高齢者に優しいまちとして、シルバーヘルスプラザの入浴施設は必要だと思う。

市長：公共サービスにも限界があるため、全てを維持するのは難しい。今後は選択が必要になってくる。限りある資源を子どもたちに優先的にというチルドレンファーストの考え方もその一つである。今後そのような選択の議論も市民の方に、説明し御理解いただく必要がある。

樋渡委員：これまで社会に貢献してくださった方々も、若い世代や子育て世代、子どもたちが住みやすいまちになっていければ良いと思う。

市長：民間の資源を活用しながら、機能を維持しつつ公共施設の集約化という議論がこれから出てくる。利用者負担の部分もこれまで無料だったものが、維持できなくなった際に、利用者の方にどう理解していただくかという部分も大きな問題である。

樋渡委員：様々な検討をする中で、例えば機能を民間事業者に移す際には、優待券を渡し費用助成を行うのも一つのやり方ではないか。

市長：一度始めたサービスを廃止するのは、なかなか困難なことで、何かを始めるより止める労力の方が大変である。理解を深めていくような議論ができると良い。

市長：埋蔵文化財調査センター展示室で、「祈りとまじないの古代史」という企画展が今度開催される。多賀城創建1300年に関連する企画のため、親子が興味を持って訪れるような展示であれば良いと思うがいかがか。

教育部長：誰のための企画展なのか、専門家のための企画展とならないように企画の段階からアイ

ディアをいただきたいと思う。

文化財課長：子どもから大人まで広く楽しめるような企画になるように検討していきたい。

樋渡委員：キャッチコピーやネーミングなど、若者や子どもたちに響くようなものであれば、受ける印象もまた違ってくるのではないか。

市長：何かアイデアや考えがあれば、いつでも教えていただきたい。

以上